



第65回日本医真菌学会総会・学術集会／
真菌症フォーラム2021
モーニングセミナー3

日時

2021年10月30日(土) 8:20～9:20

会場

第3会場(第一ホテル東京 5F 「ラ・ローズⅡ」)
東京都港区新橋1-2-6

本セミナーはライブ配信も実施します。

詳細は「第65回日本医真菌学会総会・学術集会／真菌症フォーラム2021」ホームページ
(<https://jsmm2021.jp>)よりご確認ください。

爪白癬の完全治癒を 目指して 2021

～私ならこう治療する～

座長

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚病態学分野 准教授
竹中 基 先生

講演1

知っておきたい
爪白癬の基礎知識と治療のコツ

金沢医科大学病院 皮膚科 准教授

竹田 公信 先生

講演2

ホスラブコナゾールによる爪白癬治療
—完全治癒を目指す治療戦略—

帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科 助教

下山 陽也 先生

爪白癬の完全治癒を目指して 2021 ～私ならこう治療する～

講演1

知っておきたい 爪白癬の基礎知識と治療のコツ

竹田 公信 先生 (金沢医科大学病院 皮膚科 准教授)

現在、本国の爪白癬治療に適応のある薬剤として、内服抗真菌薬が2系統3剤、外用抗真菌薬(爪外用液)が2系統2剤存在する。皮膚科医であれば、それぞれの薬剤の特徴や使用方法について正確に知っておく必要がある。新ガイドラインでは爪白癬治療の原則は内服抗真菌薬であると明記されているが、実臨床では内服適応者であるにもかかわらず、漫然と爪外用液のみ数年間にわたり処方されている例が散見される。経済的にも患者負担は

相当なものとなり、さらに爪白癬は治らない疾患と誤解されるかもしれない。そのため皮膚科医は、薬剤の有効性、安全性、経済性を十分に考慮した上で、内服薬と爪外用液を駆使し短期間で治療を完結させる手腕が求められる。爪白癬は感染症であるため、早期より適切な治療を行えば他者への感染も予防できる。皮膚科医が積極的に爪白癬治療を行うことで、本国の予防医学や公衆衛生の面で大きく貢献できると思われる。

講演2

ホスラブコナゾールによる爪白癬治療 —完全治癒を目指す治療戦略—

下山 陽也 先生 (帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科 助教)

爪白癬は外観の問題が患者の悩みとなることが多いが、病変が高度になると歩行、起立、運動に支障が生じるようになり、転倒のリスクとなることも知られている。糖尿病患者では、潰瘍や蜂窩織炎などの原因となり、重症化の恐れもある。爪白癬は肉体的・精神的な負担が大きく、患者のQOLを損ねる疾患であると認識し、完全治癒を目指す治療戦略が必要となる。

薬物相互作用や重篤な副作用が比較的少なく、これまでの爪白癬治療薬に比べ内服期間も短いホ

スラブコナゾールは爪白癬治療の新たな選択肢として期待されている。当院で解析したホスラブコナゾール内服治療成績では、多彩な病型・基礎疾患を有する症例・重症例・高齢者でも完全治癒を達成できた症例が比較的多かった。さらに、軽症例ほど完全治癒率や完全治癒までの期間が短かったことから、重症化する前にホスラブコナゾールによる治療を開始することが、完全治癒を目指すために重要となるであろう。